

五接环

JAPAN REGION

No.4

Volume 21 June 2003

目 次

Table of Contents
Vol.21, No.3, June 2003



第 21 回 I T C 日本リージョン年次大会報告

..... ITC Japan Region 21 st Annual Conference Reports	1
日本リージョン会長基調演説	Japan Region President' s Keynote Speech 2
I T C ニュースと視点	News and Views from ITC 4
日本リージョン会則修正及び決議の報告	
..... Amendments to Japan Region Bylaws • Standing Rules and Resolution	5
第 21 期 I T C 日本リージョン年次報告	The 21 st Japan Region Annual Report 2002-2003 6
第 2 1 期日本リージョン年次大会における表彰	Awards 8
大会評価用紙のまとめ	9
リージョン大会プログラム報告	12
スピーチコンテスト	14
大会広報委員会・謝辞	15
大会アルバム	16
新クラブ紹介	Introduction of New Clubs 22
お知らせ・ROASTER 2002-2003 変更・訂正	23

第 21 回 I T C 日本リージョン年次大会報告

大会テーマ
「神秘の宇宙」
“Majestic Universe”



大会プログラム



I T C テーマ

2002-2003 ITC Theme

“Adding New Dimensions”

「さらなる次元に向けて」

日本リージョン第 21 期テーマ

2002-2003 Japan Region Theme & Goals

「世界を視野に」

“The World Views”

第21回日本リージョン年次大会基調演説

Japan Region President's Keynote Speech



I T C日本リージョン会長 村上 令子

今期「世界を視野に」とテーマを設定し、ものごとを広く見る意識と観察力、何事にも対処出来る、柔軟な感性を持って任務を遂行してまいりました。

長期目標に掲げました組織運営の合理化につきましては、組織運営研究委員会へ日本リージョンのどの部分を改善したらよいかを分析依頼しました。

I T C会則改正に伴って、カウンスルが所属するクラブの選択になった事を受けて、今後各カウンスルは存続するや否や、各カウンスルの望ましい方針・運営法を調査依頼しました。その結果、現在までのところ、全カウンスルは存続する事になりました。望ましい運営に鑑み、新しい会則作りの検討開始のカウンスルもあります。

リージョンにおける活動の合理化と効率化により、経費の削減が実施可能かと思われれます。次年度からI T C年会費が値上げになることによって生じる会員減少を緩和するために、リージョン年会費の値下げについて、特別委員会「年会費検討委員会」を任命し、検討しました。

リージョン委員会の活動を再検討し、委員会の数と内容について合理化を計る事。

リージョンからカウンスルへの公式訪問について、方法と内容を再検討する。リージョン主催のCMTの在り方についても、役職・委員会別に内容を検討する。会計の研修を重点的に行う。

以上の事柄を今後に向けての課題といたしました。

クラブの活性化の一環として、リージョン、カウンスル増設委員長始め委員会の皆さん方の熱意と努力で、今期、愛媛、ふじ、紀州の3つのクラブの増設が完了いたしました。

今期 I T C本部が大きく変化した事によって、日本リージョンは今期ほど、I T Cに対して会員が関心を持った時期はないと思います。

本部より財政困難につき、組織の存亡に関わる事から、寄付の要望が有り、日本の会員、クラブ、リージョンが多額の寄付をしました。

ビルが売却されたこと、本部事務所を運営費の高いアメリカ以外に設置する事など決まったようです。

私達会員は、組織に安住するのではなく常に、自分自身が、どうありたいかを問いただし、一方組織はいかに、会員の向上心を満足させる仕組みをつくり、活性化させるかが課題です。

I T C組織が、よりよく機能が発揮されるのであれば、会員からの意見、提言を取り上げて、それらを検討する事も考えなければ、時代にそぐわない恐れも有ります。

本部とのコミュニケーションは事務的なものがほとんどで、組織についての考えのやりとりがありません。

情報はスピーディーに、的確に、明解に伝達を計る必要があります。科学技術の発達によって、情報が素早く送られ、受け取る事が出来るようになりました。

確かに、日本リージョンにおいても E メールによって高速に情報を伝達する仕組みは確立されていますが、送る事に対して受ける側の協力がありませんと成り立ちません。一方的に送るだけではその情報が正確に伝達されたかどうかは不明です。メール送受信に対する認識が必要になってまいります。

今期、昨年より12月よりクラブへ直接お知らせ、情報のメールを送るのではなく、緊急を要する内容情報以外は、全てリージョンホームページに掲載としました。従いまして、会員はだれでもホームページより情報を得る事が可能な状態になりました。

人は、活字によるコミュニケーションより、声によるコミュニケーションによって、より多くの事を学びます。

声による、コミュニケーションは活字によるコミュニケーションより、はるかに、生き生きとしています。

対話は一つの生き物であると言われます。取引、闘争など、様々な人間関係がそこに反映され、言葉と云うものが媒介になって、また、次の人間関係を生んでいきます。

I T Cの中において、今後より一層素敵な人間関係を築き上げられて行く事を願いつつ、基調演説に代えます。



ITCニュースと視点

News and Views from ITC-



ITC会長 ヒラリー・ブラウン

2002-2003年の今期は、ITCの世界にとってさらなる次元に向けた年となりました。会員サービス、さらなる次元に向けたものとする、質の高い訓練の提供などが、今年度の目標として決定されました。

さらなる次元にむけた精神で、今年度のITC COMMUNICATORは装丁を全く新しいものに作り替え、ニュージーランドで発行する契約を結びました。

ITC会長は今期、リージョン会長と次期リージョン会長にEメールで情報を提供しつつ、グローバルディメンションをウェブサイトに掲載しました。

ITC本部ビルを売るという手段は、ビルを売り、新しい分野や商品性を加えることで次年度役員にITCを継承していくチャンスを与えるということでした。

会則常規の修正案は数多く提出されています。

昨年の派遣員によって提案され投票された会費の値上げの件ですが、多くの会員はそれだけの支出に応じるのは難しいという結果となりました。

「この決定は2005年まで変更できない」という但し書きを修正するという修正案が今年度提出されています。

その但し書きがまず修正されれば、それに続いて金額の65ドルを変更するという別の動議が提出されるでしょう。

どうか、クラブ派遣員が世界大会の討議に参加する前にクラブ内で話合っておいてください。

ITCサービス業務はニュージーランドのジュデイジョウバトが所有し運営する会社によって管理されます。

日本リージョン会則修正及び決議の報告

Amendments to Japan Region Bylaws • Standing Rules and Resolution

会則・決議委員長 和爾 玲子

第21回日本リージョン大会に提出された日本リージョン会則の修正案2件、常規3件、決議案1件は、決議案から審議され、下記のように修正の後、採択されました。
会則及び常規の審議の結果は下記の通りです。

決議案 修正の後、可決
従って、決議は下記ようになります。

世界の ITC 会員総数の 4 分の 1 を占める日本リージョンから、ITC 国際役員会の役員候補者を送り出す時期が到来したので、そして、日本からの役員候補者が当選した場合「ITC 会則第 8 条、役員、B 項、資格、1、の (f) 英語でコミュニケーションができるか、ITC に費用の負担をかけないで通訳をおくこと。」に適合するので、よって、日本リージョンがその負担額を援助する目的で、日本リージョン基金から、任期 2 年の通訳の経費の一部として 30 万円を上限とし、支出すること、を決議する。

修正案 1. 否決
従って、現行会則のままとなります。

修正案 2. 可決
従って、会則は、下記の記述となります。

会則 第 6 条 任命役員 B 項 任命役員の任務 3.
B 項 任命役員の任務：

3. 事務局長は役員会の指示の下に出版部、資料部、翻訳部、経理部及びコンピューターシステムの管理を行う。

修正案 3. この修正案は自動修正の範疇として、ブリーフィング時に提案者役員会によって取り下げられ、審議はされませんでした。従って、常規は、下記の記述となります。

常規 8 ITC 日本リージョン事務局
d. 2) マスターマニュアル日本語版の管理

修正案 4. 及び修正案 5. 時間切れで審議未了となり、議長により会期終了による閉会が宣言された時点でこれら 2 つの修正案は破棄されました。

第21期 ITC日本リージョン年次報告

The 21st Japan Region Annual Report 2002-2003

日本リージョン書記 佐藤 明子

第21期日本リージョン役員会は、日本リージョン声明文「ITC日本リージョンの使命は、ITCの目的とするコミュニケーション技術、組織運営の技術を習得する機会を会員に提供して、リーダーシップをそなえた社会人を養成し社会に貢献することにある。」を継承し、第21回年次大会をウェスティンナゴヤキャッスルに於いて、2003年6月3日から6月5日に開催した。会則・常規及び役員会方針に基づき、村上令子会長のテーマ「世界を視野に」を実践するために、以下の活動を行った。

長期目標

- ・組織運営の合理化

短期目標

- ・伝達方法の多様化
- ・クラブの活性化
- ・事務局の効率化

1. クラブ数・会員状況

- ① 日本リージョンは、今期8カウンスル、85クラブ、会員数1710名（内、重複会員25名）でスタートした。6月2日現在、日本リージョンのクラブ数88クラブ、会員数1831名（内、重複会員32名）である。

2. 研修会報告

- ① CMT（カウンスル運営研修会）について
 - ・第1回は2002年11月6日 京都タワーホテルにおいて 2時間30分にわたり、13部門 115名が出席して開催した。
 - ・第2回は2003年6月3日 ウェスティンナゴヤキャッスルにおいて 1時間45分にわたり、13部門124名が出席して開催した。
- ② PEP（成果向上の為のプログラム）について
 - ・PEP-1、フェイズ1は、2003年6月3日、ウェスティンナゴヤキャッスルにおいて、1時間45分にわたり、公式訪問者ヒラリーブラウンITC国際会長によりおこなわれた。
 - ・PEP-1、フェイズ2は、リージョン役員を対象とした今大会の評価と次期リージョン役員のための研修が、2003年6月5日ウェスティンナゴヤキャッスルにおいて、1時間50分にわたり、公式訪問者によって行われた。

3. 主な活動報告

- ① 役員会は定足数のもと、現在までに臨時役員会を含め、10回名古屋にて開催した。
- ② カウンスルへの公式訪問は、6名の役員が行った。

- ③ リージョンメールは、第1回リージョンメールは、E-mail 連絡網で送信し、第2回以降、第3回、第4回は、リージョンホームページに掲載し必要な書類を会員が自由に見ることが出来るようにした。
- ④ リージョンホームページには、各レベル会則、オールクラブメーリングの翻訳、役員会便り、会員数一覧表などを掲載し、会員に情報を提供した。
- ⑤ 今期から事務局移転に伴ない、ITの機能が充実され、各クラブへの送信は会長の指示のもと事務局から直接行った。
- ⑥ 2003年7月のITC世界大会で採択された事項に対応し、役員会はカウンスルの存続を示し、今後のカウンスルの方針の報告を依頼した。

4. その他の報告事項

- ① グリーソン議事法ダイジェストが出版された。
- ② 20周年沿革史を会員に配布した。
- ③ リージョン会報は、年4回発行予定で、これまでに3回発行し全会員に配布された。
- ④ 会計マニュアルは、現存のものを集約したものを作成し、次年度に継続して検討していく。
- ⑤ クラブから推薦された次期国際役員候補者を日本リージョンが支持することにした。
- ⑥ ITC本部の支援のために会員の協力をよびかけ、714,295円、5,976ドル本部へ送金した。
- ⑦ 委員会の主な活動
 - ・会計監査 2003年3月16日に中間監査を行った。
 - ・増設 愛媛クラブ、ふじクラブ、紀州クラブの3クラブが増設された。
 - ・プログラム・教育 委員会を7回開催し、CMT及び年次大会の教育セッションを企画、実行した。
 - ・組織運営研究委員会は日本リージョンの組織運営に関する研究を行った。

第21期日本リージョン役員会は、村上令子会長のもと、テーマ「世界を視野に」を意識し、ITC本部とのコミュニケーションを綿密にすることを心がけ、あらたなITCの充実のため、日本リージョンも改革を目指して、前向きに取り組み任務を遂行した。



第21期日本リージョン役員

第21期日本リージョン年次大会における表彰

Awards

表彰1. フルメンバークラブ 7クラブ

カウンスルNo	クラブ名	カウンスルNo	クラブ名
No. 1	錦クラブ	No. 5	徳島クラブ
No. 3	姫路クラブ	No. 7	鳥取クラブ
No. 4	岡山クラブ	No. 8	東京クラブ
No. 5	大阪クラブ		

表彰2. 最も会員が増加したクラブ3クラブ (フルメンバークラブを除く)

カウンスルNo	クラブ名	カウンスルNo	クラブ名
No. 1	栄クラブ	No. 7	米子マンデー
No. 5	帝塚山クラブ		

表彰3. クラブを増設したカウンスル3カウンスル

カウンスルNo	カウンスル会長名	カウンスルNo	カウンスル会長名
No. 2 愛媛	瓜生原 稔子	No. 5 紀州	中馬 知津子
No. 4 ふじ	片山 一子		

表彰4. 満20年継続会員 35名

カウンスル別 員数	クラブ 会員 氏名
No. 2 1名	阪 神 南部紀代美
No. 3 9名	関 西 渡辺 年子 西 宮 蓬萊 幸子 児玉 照江 松尾 京子 仁熊 愛子 斉藤 静香 桜井 松子 下平 朝子 山道 詞子
No. 4 8名	九 州 大野加津子 ひろしま 石崎 慶子 桑原美紀子 皆川 迪子 沖田 道子 高木 彬子 坪島奈美江 山崎 文恵
No. 5 1名	大 阪 石倉 伊智
No. 6 10名	平 安 出蔵 高子 城山 博子 都 寺内紗智子 奈 良 福本 弘子 亀山 千里 総谷 英子 中野 知子 豊浦 雪子 山野 逸子 稲田 礼子
No. 8 6名	東 京 堀江 祐子 嶋田 凱子 三村 典子 目羅てる子 佐野千賀子 筑 波 柘植 法子

表彰5 満30年・35年継続会員 2名

No. 1	名古屋 竹内 宏子 満30年
No. 2	阪 神 三宮 晶子 満35年

大会評価用紙のまとめ

日本リージョン第一副会長 田口 邦子

第21回年次大会の評価用紙は約150名の方から貴重なご意見を頂きありがとうございました。今後の日本リージョン大会の運営に少しでも反映され、会員がより満足出来る会となる事を願い、**数の多いご意見を中心に**まとめました。

I ビジネスについて。

良かった点（半数が記入なし）

- 万事処理が適当であった。
- 国際会長の出席は大変意義のあるものであった。
- 会長は終始、冷静沈着で、役員、委員会の準備は良くなされていた。

改善すべき点（殆ど全員回答）

- 審議が時間不足であったので時間配分を良く考えるべきである。
(国際会長からも指摘があり、委員会報告のうち採決の必要でないものは大会冊子などに掲載して、審議時間に配分した方が良いとの事)
- 議長としての準備と対応が望まれる。
- 破棄された議事は表決されるべきであった。デリゲートはクラブで準備してきたのだから、昼食時間に延長しても採決された方がよかった。
- 名前の発表にはよく注意する必要がある。
- ページは壇上、両サイド、全体に、配置され、常にボード、フロアーの要請に即応出来るよう人数など考慮されるとよい。

II 教育セッション、プログラムについて。

全体について。

- セッションは希望どおりに受けたい。
- 当日になって教育セッションに無断欠席が目立った。
(1割以上の当日欠席者があったが、会員としての自覚を促したい。教育あつてのITCなのでプログラム時間内はお役の方もクローズされ、受けられた方が良い。委員長所見)
- 欠席者の代わりに希望セッションを受けられる方法を考えて欲しい。
- 斉藤大使の時に出入りが多く、講演者に対して失礼であり、会員として恥ずかしい。また聴衆も落ち着かない。
- リージョンならではの高いレベルでありながら気軽に参加できた。

A 須田寛氏の講演（報告書参照）

- 講師として素晴らしく、また理論的で将来の展望が聞けた。
- 質問にも丁寧に答えられた。

B 加藤幸兵衛氏の講演

- 会場の雰囲気良かった。
- 各国の文化の違いを良く分析されていた。

C 議事法

- 実際に役立つものであった。
- 議事法は難解と思っていたが良く理解できた。

D ディベート (報告書参照)

- ディベーター、タイマー、は良く訓練され、準備されていた。
- 活発で充実していたので時間が早くすぎた。

E 情報と分析

- 難しい内容が良く調べられ理解できた。
- リージョンならではのワークショップであった。

F 英語のスピーチの作成

- 英語のワークショップとして質の高いものであり、今後も是非やって欲しい。
- ヒラリー国際会長も出席され嬉しかった。

特別プログラム

第一部 国際会長に聞く Q&A (報告書参照)

- 会員の難しい質問をプログラム委員会はよくここまで纏められた。
- 国際会長から直接答えて貰い少しは納得した。回答についてはがっかりしたものもある。

第二部 斉藤元駐米大使の講演

- 世界情勢、国際関係について普通聞けない話が聞けた。
- 品格のある話ぶりで日本の外交官として恥ずかしく無い方であった。

III スピーチコンテストについて

良かった点

- 日英共にスピーカーのレベルが高くなった。
- プログラムリーダーは自然体で明るく楽しいリードぶりであった。

改善すべき点

- 聴衆は前から詰めて座るように心がけたい。また日本語の部の開始時に会場がざわついていて、コンテストの気持ちになって欲しい。
- ジャッジの選定には細心の注意が必要である。
- 委員会、ジャッジ、会長、プログラムリーダーの入念な事前の打ち合わせが望まれた。特に同点の出た場合発表までの時間について。

(1位が同点の場合、全順位を再審査する事になっていて、今回熱心な審査員の意見が伯仲した。委員長所感)

IV 大会準備委員会について。

ウエルカムパーティー

- 太鼓、口上など会員の多才さで大変楽しめた。
- 食事が着席で、準備委員会の補助もあり、質量共に大変良かった。
- エンターテイメントが多すぎる。手作りの会で良いのではないか。

バンケット

- 食事が美味しく、エンターテイメントの楽器も珍しく素晴らしかった。
- 他ホテル、自宅に帰る人の事も考えて、時間内で終わって欲しい。

ホテル

- 2つのホテルのシャトルバスをもっと早朝から出して欲しかったし、往復の時間もかかり、せめて近くのホテルに設定して欲しかった。
- 昼食の配膳の時間に気を配り、午後の開始を遅らせるべきではない。
- 名古屋駅でシャトルバスの乗り場が分からず、タクシーの利用者が多かった。
- 景色は最高で、同一フロアで分かりやすく、疲れなくて良かった。
- 従業員の方が親切であった。

登録

- 登録方法がとても良かった。

キット

- 多くの細かな分類の配布物を短期間に入れるご苦勞に感謝。
- キットの袋はカラフルで、メモも同色で、ペンも入り良かった。

会場備品

- 多くの細かな要望を完璧に果たされ、大会の進行が順調であった。

デコレーション

- テーマに添った大きなタペストリーは素晴らしい出来映えであった。
- バンケットのテーブル装飾もきれいだった。

ホスピタリティー

- きめの細かい行き届いた配慮で、ホット一息の場を提供された。

写真

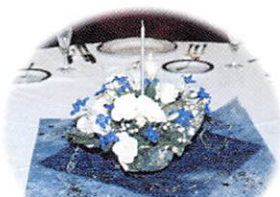
- 写真屋さんが熱心なのは分かるが目障りにならない様にして欲しい。

受付

- 大勢で対応され、準備もよくなされていた。

全体

- 暖かな対応と準備が良くなされていて気持ちよく3日間を過ごせた。
- 大会冊子の表紙が明るくきれいで活気を感じた。
- 大会を成功に導いたNO.1の実力を実感した。全ての大会関係者に大いに感謝している。



リージョン大会プログラム報告

プログラム・教育委員長 田口 邦子

ヒラリー国際会長に聞くQ & A



今期最も力が入ったプログラムは何と云っても、「国際会長に聞くQ & A」である。せっかくお迎えするのだから**あちらまかせ**ではなく、会則も会費も大幅に変更されるこの機会に、疑問、質問、要望、提案を8カウンスルから募り委員会でまとめ、提出しようという事になった。予想以上に厳しく又熱の入った「**質問の嵐**」に委員一同大変責任を感じ出来るだけその熱意に応えなければと、質問事項作

りを何度もやり直し大変神経を使った。また心配だったのはこのように厳しい質問に答えが返ってくるかという事であった。質問の内容については、素朴なものや幼稚なものも含まれてはいたが、**これが今の日本の会員の現状**なのだから会長にも分かって貰おうという事になった。又、**これを乗り越えなければ会員が納得しない**という事も委員会はよく分かっていた。返答が到着した時は本当に大感激であった。それは予想以上に早く6ページもの丁寧さで、**ヒラリー会長の誠実なお人柄**が滲み出ていたからである。ただその中には求めていた答えと違うものや、びっくりするほど深刻なもの、今後のITCの運営が心もとないものあり、であったが、**これもまたITCの現実**として会員に受け止めて貰おうという事になった。

この熱意に役員会も大変協力的で**同時通訳機器 55万円**を予算化した。これは、時間の節約は勿論であるが、何より質疑の応答にずれが無く会場の一体感を得た事が一番の利点であった。

又、なんとしても**会員と会長の意思を正確に**伝えたいと、プログラムリーダーと二人の同時通訳者、ヒラリー会長は何度も打ち合わせをし、本番に臨んだ。

準備万端の成果か、全員大変落ち着いた声や態度で聴衆に聞きやすい状況を醸し出した。それに影の功労者は、予算を度外視してブースを提供して下さった機器の会社である。それら全てのお陰で全く予想外であったが当日お聞きする質問も、文書でお答え頂く質問も**全て時間内**に終わった。従って会報第4号に答えの掲載は無くなった。

ご参加の皆様はどの様にお感じになったか、また建設的なご意見をお聞かせ頂きたいところである。

この画期的なプログラムの役割は、今後本部に対して日本の会員がもっと積極的に関心を持ち、意見を言い、責任の一端を果たし、ITCが立ち直り、発展していく為の、**始めの一步である**と考えている。

この1年間頂きました多くの会員のご協力を心から感謝申し上げます。



教育セッションA 「新幹線の昨日・今日・明日」

講師 JR東海会長 須田 寛 氏



新幹線の御講演に入る前に郷土中京圏の産業遺産について触れられ名古屋を東京と大阪の通過点ではなく、人と人の触れ合う産業観光都市とする施策を熱く語られました。

続いて昭和39年10月東京オリンピックに向けての新幹線開業のご苦労から昭和62年 JR東海となるまでの歩みと、近い将来ひかりもこだまもすべてのぞみと同じ時速270km で走行させるお話や、のぞみに自由席を作り乗車券の価格を極力押さえる努力をお聞かせくださいました。

質疑応答では会員から多くの質問が出て1つ1つ大変丁寧にお答え頂きました。ご講演時間の70分を最初のお約束通り30秒と変わらず終わられました。プログラムリーダーの石川祥子さんは「きょうはITCの会員にとって本当にお手本となるような御講演をお聞かせ下さいました」と最後に纏められました。

(報告 プログラム委員 横地 田鶴子)

教育セッションD ディベート全員集合 (変則全員参加型)



5人制ディベートのメンバー10名はカウンスルN01の各クラブから一名ずつ、モデレーター1名、タイマー3名、総勢14名から構成された。半年前の第一回の会合から、6月の大会まで6回、更に各サイドで個別に何回も打ち合わせが行われた。岡崎、刈谷、浜松、また高山から2時間かけて参加したメンバーには頭が下がる。論題がヒトクローンというタイムリーではあったが難題であった為、当日どれだけの聴衆を巻き込んで発言してもらえるかが最後まで不安であったが、両サイド5~6人の参加者があり盛り上がった。ディベーター達は何ヶ月も勉強してきたせいですが専門的になっていたので、反駁で当日の突然の参加者と問題の把握にギャップが多少生じた。モデレーターは堂々としていて上手く導いた。ジャッジのコメントも的を得ていた。68名全員がピンク(否定)とブルー(肯定)、ジャッジはゴールドの手作りのコサージで色分けし、タイマーは黒のTシャツを着用。双方のタイム表示もピンクとブルーの看板で行い、ビジュアル的には大変面白かった。タイマーは反駁でそれぞれの発言時間を別々に計るという面倒な作業を手際良く行った。参加者全員がこの6ヶ月間、本当によく努力し一致団結してセッションに臨んだ事を最も高く評価したい。

(報告 プログラム委員 川崎 瑤子)

スピーチコンテスト

スピーチコンテスト委員長 藤原 文子

今期は英語 6 名、日本語 8 名の出場者でした。

さすがにコンテストの皆様は第 1 級の堂々たる素晴らしいスピーチで、聴衆は惜しめない賞賛の拍手を送りました。英語の部の 1 位プティ・マーク氏はダーバンの世界大会に出場されます。

英語の部 入賞者

- 1 位 プティ マーク (盛岡) Subject: Voice
Title: The French Way
- 2 位 川嶋 久美子 (梅田) Subject: Globalization
Title: Is the world growing smaller?
- 3 位 加藤 泰子 (錦) Subject: Communication
Title: Language



日本語の部 入賞者

- 1 位 宮崎 光子 (琵琶湖) 論題：イメージ
題目：その向こうに見えるもの
- 2 位 広瀬 忠子 (阪神) 論題：写真
題目：二つの卒業式
- 3 位 中来田慶子 (西宮) 論題：壁
題目：訪問者



第 2 2 期日本リージョン選出役員

会 長 山崎 眞知 (宝塚)
次 期 会 長 早川 住江 (大阪)
第一副会長 大藪 京子 (平安)
第二副会長 大島 麗子 (舞子)
書 記 南部紀代美 (阪神)
会 計 桑原 弘子 (都)



大会広報委員会

大会広報委員長 堀内 廸子

第 21 回日本リージョン年次大会では、中京テレビと中日新聞社の取材が行われました。

- * 大会第一日、中京テレビは10時にカメラが入り、開会式を取材し、当日の11時30分からの「この地方のニュース」で放映されました。
入場行進、壇上のリージョン会長、国際会長がクローズアップされ、又各派遣員たちの緊張した面持ちが放映され、ITCの雰囲気がとても良く出ていました。
- * 中日新聞は、JR東海須田寛会長の講演会場にカメラマン、記者が入り取材しました。翌日、6月5日の朝刊に記事が掲載されました。

中	日	乗
人が出場。二週間前に与	大会には海外からの会 員を含め約七百人が参加 した。英語スピーチコン テストは毎年開かれてお り、全国から選ばれた六 人が出場。二週間前に与	ITC・名古屋 全国大会に700人 主に女性の自立のため の教育活動を続ける国際 団体「ITC」の全国大 会が四日、名古屋市西区 のホテルで始まり、英語 スピーチコンテストなど が催された。 大会には海外からの会 員を含め約七百人が参加 した。英語スピーチコン テストは毎年開かれてお り、全国から選ばれた六 人が出場。二週間前に与
あり、日本では一九五〇	勢」を予定。二千円で入 場できる。 ITCは米国に本部が あり、日本では一九五〇	えられたテーマに沿い、 「世界は小さく?」「モ ダンライフ」などの題で 競った。 この日は、JR東海の 須田寛会長による講演 「新幹線の昨日・今日・ 明日」もあり、会場を沸 かせた。大会最終日の五 日は午前十一時から、斉 藤邦彦元駐米大使の特別 講演「日本を巡る国際情 勢」を予定。二千円で入 場できる。 ITCは米国に本部が あり、日本では一九五〇
		年に名古屋で発足。会員 は全国に約千九百人がい る。

謝 辞



大会コーディネーター 西村みつ子
 コ・コーディネーター 新木 昌子
 コ・コーディネーター 伊藤 容子

21回大会は約700名の参加者を迎え、有意義な大会となりました。皆様の暖かいご支援とご協力のおかげで無事終了できましたことを心からお礼申し上げます。

今回は宿泊ホテルが2つに分かれましたので、大勢の方々にご不便をおかけしました。それを補うためにも、皆様に少しでも居心地良く楽しんでいただこうと、準備委員会一同が心をこめてあれこれ企画し準備致しました。十分お楽しみ頂けたでしょうか。

名古屋での大会は7年ぶりということもあって、準備活動にもフレッシュな気持ちで熱が入りました。チームワークの大切さと、チームワークを成功させるためにはコミュニケーションがいかに重要であるかを実感し、本当に学ぶことの多い1年でした。

ウェスティンナゴヤキャッスルのスタッフの皆さんにも大変お世話になりました。私達の熱意をしっかりと受け止めて積極的に提案をいただき、真心のこもったサービスを提供して下さいました。ここでもコミュニケーションの重要性和有効性を肌で感じた次第です。

名古屋大会の良き思い出と学びの成果が皆様の心の中にいつまでも残りますように祈っております。

大会アルバム



準備中



受付

CMT (カウンスル運営研修会) 13部門124名が出席して行われました。



PEP-1 フェイズ1

公式訪問者ヒラリーブラウン ITC会長により行われました。

ウェルカムパーティ



ビジネスセッション (4日・5日)



ヒラリーブラウン ITC 会長



村上令子 日本リージョン会長



ロビーの様子



入場行進 8カウンスル・88クラブの会長が勢揃い



晩餐会



愛知県知事



名古屋市長



メインテーブル



エンターテイメント「ムジカセラミカ」

役員就任式



特別プログラム



教育セッション



新クラブ紹介

Introduction of New Clubs



和歌山の美しい城下町によき出逢い

I T C 紀州クラブ会長 山下 久美子

まず最初に、和歌山で初の I T C のクラブとして皆様方のお仲間入りをさせて頂きましたこと、私達、紀州クラブ一同、心より感謝申し上げます。増設委員の皆様のご熱心なご指導を頂き発足する事が出来ましたが、まだまだ未熟で解らない事ばかりですので、どうぞこれからもよろしくご指導頂けますようお願い申し上げます。

今期のテーマを「出逢い」と致しました。これは相田みつをさんの詩集の一編からお借り致しました。普通「であい」と言いますと「出」と「会う」と書きますが、相田さんは「出逢い」とされています。この「逢う」は、予定された出会いではなく思いもかけない出あいに使われます。『その時の出逢いが人生を根底から変えることがある。よき出逢いを』相田みつをさんのこの詩を紀州クラブ誕生の感動の言葉に代えさせて頂き、皆様方と共に学んでいきたいと思っております。

I T C ふじクラブ誕生

ふじクラブ会長 黒田 豊子



若葉が青々とした生気を躍動させる5月、国際的 I T C が倉敷に誕生しました事を心から嬉しく思います。これもひとえに皆様方のご協力のお陰と感謝致しております。

ふじクラブのふじは倉敷市の市花より命名致しました。一番古い藤の木は樹齢550年たった今でも、市民に愛され薄紫の美しい花を咲かせております。ふじクラブも I T C のモットーでありますリーダーシップのあり方や、会議の持ち方を学ぶことによって、互いに支え合い、自己を磨き、一人一人が個性豊かな花を咲かせ、藤の花のように一つの房となって開花し、地域社会に貢献してゆきたいと思っております。

そして「ことば」の優雅で、流暢な使い方や、人を魅了することができるような上手な話し方を学び、日本語の美しさ、すばらしさに気付き、多くの方々と出会い、コミュニケーションする事により、ほんの少しでも平和な世界が生まれるお手伝いができるならどんなに素晴らしいことでしょうか。

I T C をもっとよく知り、勉強する仲間を増やし、先輩方の皆様に一歩ずつ近づくことができますよう、精進して参りたいと思っております。

これからも皆様のご指導を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

お知らせ・ROSTER 2002-2003 変更・訂正

会報 No. 21 No. 2 January 2003 の訂正

4 頁 カウンシル No. 2 広瀬忠子 (阪神) 会員の記事

「西宮市民文化賞を授与されました」を「芦屋市民文化賞を授与されました」に変更

会報 No. 21 No. 3 April 2003 の訂正

1 6 頁 カウンシル No. 8 東京クラブ小林以登様 を 青山クラブ小林以登様 に訂正

住所・電話・FAX・E-mail アドレスの変更

カウンシル No. 1	千種クラブ	鈴木 宏子	h-suzuki@muh.biglobe.ne.jp
カウンシル No. 2	神戸クラブ	白村 治子	〒305-0044 茨城県つくば市並木 4-8-43 TEL. 0298-52-5848
カウンシル No. 5	城北クラブ	福島 輝枝	ter@mincs.ocn.ne.jp
		樋口 晴子	higuharu01@hotmail.com
		鷺谷タカ子	takakow@mkc.zaq.ne.jp
	堺東クラブ	則武 紀子	ohmedama@ybb.ne.jp
		椎名 真子	sshinko@pf7.so-net.ne.jp
カウンシル No. 6	サタデークラブ	吉田 知子	all@mx.biwa.ne.jp

